

子どもの森づくり通信

発行: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P 子どもの森づくり運動 参加園月例会報 (2023年4月号)

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081 https://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

「JP子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、 活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



新しい年度を迎えました。

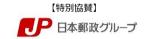
JP子どもの森づくり運動は、おかげ様で順調に活動が広がっています。 事務局では、今年度もせいいっぱい参加園の皆様の活動を サポートさせていただきたいと思います。 今年度もよろしくお願い申し上げます。

(目次)

- 1. JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ2023」のご案内
- 2. 「子森通信 リニューアルのお知らせ
- 3. リレーエッセイ(2023年4月号)

日本郵政グループからのお知らせ

日本郵政グループは「JP子どもの森づくり運動」の支援のほか、子ども達に向けた様々な取組みを行っています。





ぽすくまの動画はこちら



YouTube ぽすくま【日本郵便】

https://www.youtube.com/channe I/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ 9A

ぽすくまと1体間たち ©JAPAN POST Co., Ltd.

ぽすくまと仲間たちは 日本郵便のキャラクターです。 ぽすくまは、くまのぬいぐるみの 郵便屋さんです。仲間たちも みんな手紙が大好きです。



メッセージや イラスト

あて先はこちら

〒152-8691 目黒郵便局 「ぽすくま lあて

※ぼすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願い します。返信ご希望の場合は、手紙に住所(建物名・部屋番号 まで)・氏名を忘れず記載ください。

1. JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ2023」のご案内

J P 子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」(以下「東北復興グリーンウェイブ」)2023年度のご案内です。 「東北復興グリーンウェイブ」は、「東日本大震災の翌年の2012年から始まり、2023年、11年目を迎えました。2023年 現在、活動参加園は、全国で100園を超えました。節目の年ですので、2023年の活動の前に、あらためてこれまでの活動を ふり返り、その意義について参加園の皆さんと共に確認し合えたらと思います。

●活動のふり返り

1)活動の仕組み

「東北復興グリーンウェイブ」(以下「東北復興グリーンウェイブ」)は、東北の子どもたちと全国の子どもたちが、東北のどんぐりを育てる活動を通じて取り組む「東日本大震災」の緑の復興支援活動です。活動は、保育園・こども園・幼稚園を拠点として行われます。(右図ご参照)



2)活動の趣旨・目的

- ▶ 東北の森の「生物多様性」的再生活動に寄与すること。
- ➤ 活動を通じて、東北の子どもたちと全国の子どもたちを"どんぐりの絆"で結び、持続可能な時代を生きていく子どもたちにとって必須となる「共に生きる心」を育んでもらうこと。
- ➤ そんな子どもたちの活動を「グリーンウェイブ」を通じて、世界の子どもたちの環境活動に繋げること。

3)活動の評価

活動は、幼児期の子どもたちの環境活動として、多くの環境アワードで評価されています。(下図ご参照)

受賞年	環境活動顕彰名
2013年	「ロハスデザイン大賞」大賞
2014年	「生物多様性アクション」グリーンウェイブ賞
2015年	「グッドライフアワード」環境大臣賞受賞
2017年	「国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)」連携事業として認定
II	「グリーンウェイブ」オフィシャルパートナー活動に認定
2020年	「こども環境学会賞」活動賞

● 2023年度の活動

1) 東北での植樹活動

2023年の岩手県での植樹活動は、5月22日(月)の「グリーンウェイブ」の日に、昨年に続き、 宮古市と大槌町で開催されます。(昨年の植樹活動の模様は、右のQRコードでご覧いただけます。)



2) 苗木を東北に送る活動

- ◆ 4月末に、「どんぐりの絆BOX」をお送りしますので、東北のどんぐりの苗木を「つつみこども園」宛にお送り下さい。 「つつみこども園」での苗木の受付期間は、5月10日~19日としますので、期間厳守でお送り下さい。 苗木の梱包方法や送付先等の詳細は、別送の資料で個別にご案内します。
- ◆ 「苗木を見送る活動 I開催園は、事前に子森ネットまで開催日等をお知らせいただけますようお願い申し上げます。

2. 「子森通信」リニューアルのお知らせ

子森通信は、参加園と運営事務局、さらにはご支援者・ご協力者をつなぐ重要な媒体です。

ただ、これまでは、掲載内容が運営サイドの事情によるものとなりがちで、そのせいもあり、掲載内容が情報過多で読みづらいという意見もいただいておりました。2023年4月号からは、そのような意見を反映して下記の改善に取り組みます。

- 1) 図や写真、キャッチコピーを積極的に活用し、分かりやすい紙面づくりを目指します。
- 2) ホームページや子森チャンネルと連携した紙面づくりを心がけます。そのため、QRコードを積極的に活用します。
- 3) 2023年度より、下記の2つの新しいシリーズ企画を始めます。

①リレーエッセイ新シリーズ「SDGs入門」

多くの環境雑誌やWebマガジンのライターとして活躍されている岩井光子さんから、世界で取り組まれているSDGs活動をご紹介いただくシリーズエッセイです。(以下、岩井さんからのメッセージ)

「たくさんのお金や権力を手に入れるために、地球の資源や自然、人の権利など何かを犠牲にするやり方はもうやめよう、近未来の新しい経済のあり方、世界のあり方をみんなで考えよう。それがSDGsのメッセージです。未来から今を考えるというSDGsのスタンスは特に若い世代が関心を持ち、面白がって取り組んでいます。保育士の皆さんに関心を持っていただけるようなSDGsの考え方のヒントや国内外の事例を紹介していきます。」



*岩井光子氏プロフィール ウェブメディア"think"編集。 SDGs関連の記事をニューズウイーク日本 版、ELLEなど一般誌で執筆。 高崎市在住。

②新シリーズ「参加園活動紹介」(仮題)

参加園を訪問し、園独自の活動を取材し、ご紹介する新シリーズ企画です。第1回は、岐阜県の「浄心こどもの城」さんの継続的な植樹活動をお送りする予定です。可能な範囲で、YouTube企画と連動します。

(*右写真:「浄心こどもの城」植樹会)



4) 日本郵政グループさんのウエブサイトやYouTubeには、子どもに向けたとても有益なコンテンツがあります。 今後、子森通信のなかでも随時ご紹介していきます。

«日本郵政グループさんからのコメント»

J P 子どもの森づくり運動にご参加いただき、ありがとうございます。日本郵政グループの子ども向けの取組みとして、郵便局のキャラクターで、森の郵便局で働いているくま「ぽすくま」が登場する無料動画をYouTubeに掲載しています。2歳から4歳児を対象とした教育番組風の「ぽすくまとあそぼ」や、一緒に歌って踊れるダンスアニメ、ぽすくまたちが制作するテレビ番組など、子どもたちが興味を広げていける内容です。また、はがきをぽすくまに差し出すとお返事がはがきで届く、コミュニケーションのきっかけづくりも行っています。

これからもJP子どもの森づくり運動やそれ以外の取組みを通じて、子どもたちの健やかな成長を応援してまいります。







3. リレーエッセイ(2023年4月号)

リレーエッセイは、今月号から新シリーズとなります。新シリーズでは、「SDGs入門」として、環境ウエブマガジン「Think the Earth」等、様々な環境雑誌やウェブマガジンにすぐれた記事を提供されておられる岩井光子さんによるSDGs活動の最前線レポートをシリーズでお送りします。

【SDGs入門】

「暴力は絶対だめ!」 ~長くつ下のピッピ作者の45年前のメッセージ~

ライター 岩井 光子



SDGsの目標16に「平和と公正をすべての人に」とあります。この目標には、ロシアのウクライナ侵攻で憂慮されている子どもの連行といった世界の人道問題も含まれますし、外からは見えにくい家庭内での子どもへの心理的な攻撃や体罰も含まれます。

皆さんは、赤毛の三つ編みと長い靴下がよく似合う女の子が登場する「長くつ下のピッピ」という児童文学をご存知ですか? 1979年に世界で初めて家庭を含むあらゆる場面での子どもへの体罰を禁止した国はスウェーデンですが、実はこの画期的な法の制定を促したのが、ピッピの作者、アストリッド・リンドグレーンが前年に行ったスピーチ「Never Violence (ネバー・バイオレンス)」でした。

「大人の指示に従うなら、そこにはきちんとした理由がなくちゃならないわ!」。ピッピにこう言わせたリンドグレーンは、子どもが受ける理不尽な暴力や不公平な扱いに憤りを感じ、いつもその気持ちに寄り添ってきた作家でした。「ネバー・バイオレンス」でアストリッド・リンドグレーンは体罰を正当化する大人たちの思い込みを批判し、「物事を解決するには暴力以外の方法があることを、まずは自分の家庭でお手本として示す」ことが、長い目で見れば平和につながっていくはずだと訴えたのです。演説の日本語訳は、『暴力は絶対だめ!』(岩波書店)に収録されています。リンドグレーン記念文学賞を受賞した絵本作家の荒井良二さんが描いたかわいらしい表紙の本すので、興味にある方はぜひ読んでみてください。



ちなみに日本で体罰が全面的に禁止されたのは最近のことです。2020年、児童福祉法等の一部を改正する法が施行され、日本は世界で59番目の体罰禁止国となりました。2022年には、親がしつけの名目で子どもを戒める民法の懲戒権も削除されています。

国際NGOのセーブ・ザ・チルドレンが法制定前後に行った調査によると、体罰を法で禁止する効果は確かにあるのですが、加えて人々の意識や習慣を変えていく啓発活動が必要です。男性の育児休業の取得促進や保育環境の充実など、母親の育児ストレスを和らげることも、体罰防止につながる重要な政策です。

セーブ・ザ・チルドレンは、特設サイト「おやこのミカタ」を通して叩かない、怒鳴らない子育てを支援しています。しつけが一方通行にならず、双方向に思いが伝わり合うようになるためには、まず子どもの眼差しを知ることから。はじめの一歩をやさしく導いてくれる素敵なサイトです。

* おやこのミカタ ⇒



※【筆者紹介】岩井 光子氏:ウェブメディア"think"編集。SDGs関連の記事をニューズウイーク日本版、ELLEなど 一般誌で執筆。高崎市在住。